

あさひ若者会

調査団体名 : あさひ若者会
 設立年 : 2013(平成25年)年
 団体URL : <http://asahidosokai.jimdo.com/あさひ若者会とは/>
 活動拠点 : 豊田市小渡町15-1
 取材日 : 2014年12月11日

団体代表者名 : 鈴木啓佑
 対応してくれた人の名前 : 鈴木啓佑、戸田友介、中垣 隆
 調査員 : 蔵治光一郎、森本徳恵、大島光利
 レポート作成者 : 大島光利

活動内容

旭地区の未来のために力になりたい地域の若者、Uターンした若者が集まり発足。いろいろな取り組みをする中で関わる人とのつながりを増やしつつ、地域の課題解決のために実践できる若者の人材育成が主目的。現在のおもな活動としては、自分たちがまず旭のことをもっと知るために旭の今と昔を古老に学ぶ「ふるさと探訪フィールドワーク」。旭で頑張っている若者、嫁、事業主や旭の歴史など、知っているようで知らなかった旭の魅力に焦点を当て紹介する機関誌「シトルカン」の発刊。旭に縁のある全ての人のために開催される集いの場づくり「あさひ同想会」など。

キャッチフレーズ

みつめなおそう旭の魅力 ほんとに旭を『シトルカン』(発行しているフリーペーパーのタイトル)

会のモットー(何を大切にしているか)

メンバーの主体性を大切にしているいろいろなアイデアを引き出し、それを仲間のバックアップによって実現させることができるような場づくり。
 いろいろな取り組みをする中で関わる人とのつながりを増やす。そして関わることで地域の課題を徐々に自分事にし、課題解決のための実践者を増やすことのできる場づくり。
 気をつけていることは、Uターン増加はあくまで結果であり、決して目的としないということ。目的にしてしまうと、様々な事情で旭を出て行かなければならなかった若者が悪者になってしまう恐れがある。どんな状況であれ旭の仲間に変わりはない。

設立から現在に至るまで変化したこと

2012年、旭のために何かしたい有志グループにより「第1回あさひ同想会」を企画。そのグループが母体となり2013年より地域予算提案事業として「Uターン・親密別居者促進事業『あさひ若者会』」が設立された。設立より月一度の会合でのディスカッションを重ねることにより、少しずつふるさとに対する想いやビジョンなどが共有されてきているように感じている。

連携している団体・専門家・自治体など

豊田市旭支所(事務局)、旭地域会議

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

旭のまちづくりに関わる担い手人材育成が活動の主目的。「ふるさと探訪フィールドワーク」、「シトルカン」の発行、「あさひ同想会」の企画など、いろいろな活動を通して、徐々に郷土の課題を自分事にし課題解決のために自ら実践することの出来る若者を増やしたい。

現在直面している課題

特になし。メンバーそれぞれが主体的に関わりながら話し合いの中で生まれたものは全てが正解。想定外の結果も貴重な学びとしている。

今後やってみたいこと

みんながやりたい事業をバックアップできる体制づくりの強化。(鈴木)
老人福祉施設めぐりの里などと連携した旭の情報満載の日めくり帳の作成。(戸田)
旭町人全員集まる大イベント「3,000人集合3,000人顔つなぎ」大懇親会を実現する！(中垣)

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

世代を超えた連携体勢をつくりたい。特に地域活動の中心となっている60代、70代の方々の理解と協力が必要。

チームオリジナルの質問

<質問内容>若い女性の参加、奥様方はどのように参加しているのか教えてほしい。
<答え>若い女性の参加は2名と少ない。しかし、他では女性によるお茶会やバンドをやってる小さなグループがあったり、こども園、小学校、子ども会等で子どもを介しての仲間づくりが行われている。そういったコミュニティと連携していきたい。

チームオリジナルの質問

<質問内容>旭に移住してきたからの仲間づくりはどのようにされましたか。(戸田氏に対して)
<答え>消防団に入り活動する中で仲間がどんどん増え旭が好きになった、旭を若者で何とかしようとして「あさひ若者会」の設立に参加した。今後は「あさひ若者会」でもいろいろな活動をする中で、結果として移住や地元若者のUターン促進にも貢献できるとよい。ただ人口が増えればいいではなく、旭を元気にするために一緒に活動してくれる若者の受入れを積極的に行っていきたい。

その他、伝えたいこと

仲間で、あーでもない、こーでもない話し合い、考えたり行動したりしていることに気づき、心地よいと思うように変化をしてきた。「いつでも帰ってきやすいように」、「いつでも新しく移住してきやすいように」、「子供たちが自分の夢に向かいながらもこの旭に住み続けられるように」、「年を重ねながら旭で住み続けられるように」。焦らず様々な取り組みに挑戦して実現したい。

写真



豊田市旭支所での取材の様子
右 会長 鈴木啓佑さん
中央 戸田友介さん
左 副会長 中垣隆さん



ワークショップによる会議



機関誌「シットルカン」